



敬愛

校長 稲葉 高広

〒183-0027 府中市本町4-16

☎ 042-361-9303

ホームページ <http://www.fuchu03c.fuchu-tokyo.ed.jp/>

「本物」に出会うということ

校長 稲葉 高広

9月24日(木)から26日(土)まで、京都・奈良への修学旅行を引率しました。奈良公園や京都市内を班で巡る生徒たちは、教科書や写真で見た建物や景色を目の前にして、その美しさや迫力に引き込まれていました。「なぜ、この場所は長い年月、大切に守られてきたのだろう」、「ここには、どのような人々の願いや思いが込められているのだろう」。事前学習で膨らませた想像と重なる出会いもあれば、想像をはるかに超え、思わず足を止める出会いもあったことでしょう。画面や紙面の向こうにあったものが、自分の目の前で息づく「本物」となった瞬間でした。

私自身の心にも、忘れがたい一場面が刻まれました。2日目の夜に行われた能楽体験・鑑賞です。能楽を鑑賞するのは、私にとって初めてのことでした。京都の中心地にありながら本格的な能舞台を備えた河村能楽堂。舞台を踏みしめる足音、楽器の響きと重なる掛け声。そして、一見無表情に見える能面がわずかな角度の違いによって喜びや悲しみを映し出す奥深さ。その一つ一つに、ただ圧倒されました。代表生徒の体験に見入るうち、1時間の講座は瞬く間に過ぎ、最後に能の演目「八島」の一場面を鑑賞しました。義経の亡霊が舞い、謡(うたい)が能楽堂に満ちたそのときです。理由を言葉にする間もなく、突然、涙がこみ上げてきました。胸の奥を揺さぶられ、まさに「心が震える」という感覚でした。自分でも不思議に思いましたが、それはきっと、「本物に触れたからこそあふれ出た、飾りのない感情」だったのでしょう。主催の河村純子さんは、「今は、スマートフォンやタブレットを使えば、世界中の音楽や美術、舞台芸術をいつでも見ることができます。それはとても便利で、素晴らしいことです。しかし、実際にその場で『本物』に触れる体験には、画面では伝わりきらないものがあります。」と話されました。

演じる人の息づかい。身体にまで届く楽器の振動。舞台に立つ人の繊細な表情や動き。そして、会場全体を静かに包み込む空気。そうしたものを自分の目で見て、耳で聴き、心で受け止めたとき、「すごい」「美しい」「これは何だろう」と思いがけず心が動く。芸術に「正しい感じ方」はありません。誰かと同じでなくてもよいのです。大切なのは、自分自身の感覚をひらき、自分の心に生まれた思いを大事にすることです。本物との出会いは、すぐに答えをくれたり、目に見える成果をもたらしたりするものではないかもしれません。それでも、心を揺さぶられた記憶は静かに自分の中に残り、いつか「物事を見る目」や「人を思う心」を少しずつであっても、確実に豊かにしてくれます。

間近に迫った合唱コンクールもまた、保護者や地域の皆様にとって「本物」に出会う機会になるのではないのでしょうか。合唱コンクールは、単に歌の上手・下手を競う場ではありません。歌声を通して何が伝わったのか、そして、その一曲にたどり着くまでに生徒たちがどのように悩み、支え合い、成長してきたのかを受け止める場です。生徒の皆さんにとっては、他のクラスのように気付き、異なる学年の歌声や姿から新たな感動を受け取る機会となるでしょう。保護者や地域の皆様には、クラスが心をつなげて一曲をつくり上げてきた時間に思いを寄せ、一人一人の声が仲間の声と重なり、全体を支えている姿の中に、確かな成長を感じていただけることでしょう。そこには、歌う人にも聴く人にも、かけがえのない豊かな時間が生まれます。

聖徳大学音楽学部音楽学科教授の松井孝夫さんは、次のように語っています。

「中学生の声には、大人とは違う『この年代にしか出せない魅力』があります。自然で屈託のない柔らかさや力強さ、透き通るような響きがあります。そこに生徒たちが一生懸命歌う姿や初々しさ、仲間との結び付きが重なる。いろいろなものが融合して、人の心を動かすのではないのでしょうか。(AERA with Kids Plusより)」

一人一人の声は小さくても、仲間を信じて重ねたとき、その歌声は聴く人の心の奥深くまで届きます。歌う皆さん自身の心が震え、その響きが会場にいる人々の心をも震わせていく。今年もまた、その日、その場所では生まれない「本物の合唱」に出会えることを心から楽しみにしています。

全国人権作文コンテスト！！

2年B組の 齊藤 りう さんの作文を紹介します。令和8年度の「全国人権作文コンテスト」の東京大会・多摩東協議会へ、府中市の代表として推薦されました。今年度、府中市人権作文コンクールには、2111作品の応募があり、その中で11作品が府中市を代表する作品として選ばれています。

一人の「人」

2年B組 齊藤 りう

「お姉さんこれ見て!」「お姉さん一緒にやって!」「お姉さんこれあげる」「お姉さんやっほー!」お姉さんというワードのあとの言葉は、一人ひとり違う。私はこの夏休みに、保育園ボランティアに行きました。その中で、印象に残った三つの場面があります。まず、子どもと一緒に遊ぶ機会があり、パズルを園児と一緒にやりました。そのとき、最初私は、一緒に遊ぶ時の関わり方を探りながら、少し手伝うなどして隣で一緒に遊んでいました。そして、別の子が入ってきたとき、私は、「ちょっと手伝ったり声をかけたり褒めれば良いのか」と思い、ある時その子がピースの位置に迷っていたとき、声をかけてみました。すると、その子は、「やだ!自分でやる!」と言って、私を拒否してきました。また、ずっと笑顔で取り組んでいる子もいれば、わからないとすぐ「うわあー!」と言ってこっちに助けを求めてくる子、嫌になってピースを破ろうとしたり並べていたピースをすべてぐちゃぐちゃにしようとする子など、さまざまな反応を返されました。そのとき、私は「一人ひとり違って、難しいな」と思いました。その後、お昼寝の手伝いをしました。園児に布団を被せ、トントンするなどして寝かしつけるという内容の手伝いでした。私は、別の子を寝かしつけている先生方の真似をしながら、先生と同じリズムと位置で、自分が寝かしつける子にもトントンをしてみました。すると、その子には私は手をはられました。少しだけ時間を置いて、力加減やリズム、位置などを変えて、もう一度だけトントンしてみると、今度は平気でした。そのトントンを続けていたら、一人寝かしつけることができました。もう一人違う子を寝かしつけようとして、先生方の真似をリベンジしてみようと思い、先生方の真似をしてトントンしてみると、その子は笑顔でこっちを見ながら受け入れてくれ、わりとすぐに寝かしつけることができました。まわりを見てみると、先生方は、さすったり、手をおいているだけの先生もいて、寝かしつけ方も、一人ひとり、合った方法が違うんだなと感じました。また、食事の準備を手伝ったときに、一人ひとりに名前を聞いて棚からエプロンを取り出し、着せるという手伝いをしました。すぐに名前を教えてくれる子もいれば、答えてくれない子、他の子の名前も自分から説明してくれる子もいました。そして、自分でエプロンをつけたい子もいれば、つけてと頼んで来る子、逃げ出す子もいました。そして、一人ひとり、名前のある、一人の「人」なんだということ強く感じました。

本当に、一人ひとり、できることも、できないことも、嬉しいことも、嫌なこともあるんだなということ強く実感しました。最初の私は、ただ「こうすればいいのか」と学んだらそれをくりかえせば良いのかと思っていたので、自分がとても恥ずかしく、単純だったなと思いました。そのとき、「同じ小さな子どもでも、一人ひとり、よく見るとさまざまな面があり、合う接し方やそれに対する受け取り方も違う」ということをとても感じました。

そこから、これは、大切な人権感覚の発見と実感だと思いました。保育園という一つの空間の中にも、人権は必ず存在しており、子どもたちが、自分らしく、人間らしく生きる権利がある。「同じ小さな子どもでも、一人ひとり違いがある。だから一人ひとりを一人の「人」として、よく見て、十分に尊重するべきなのだ」と私が感じたことも合わせて、人権感覚を強く意識して生活することが、とても大切であり、特に保育園では、そういった個性を認め、生かす場所であるという面で、人権意識の必要性が非常にあると思いました。また、この経験は、普通の生活や保育園以外の場所でも必ず大切で必要なことであり、しっかりと意識して生活すべきだと思いました。今回の学びを「人権」という大切な権利を尊重する一人の国民として、これからの生活にしっかりと活かしていきたいです。

私の「心に残ったあの一言」

No.89

「人は足りないからこそ助け合える」

主任教諭 礒川 麻子

ドラマ「下町ロケット」が放送された当時、そのモデルではないかと言われていた企業がいくつもありました。それに関する記事を読む中で、偶然出会った動画があります。それは、モデルの1つではないかといわれている会社の代表である植松努さんの TEDxSapporo「思うは招く」(2014年)というスピーチです。後になって有名なスピーチだと知りましたが、今では何度も見返している大好きな動画です。

特に心に残っているのは、「人は足りないからこそ助け合える。だから、足りないことをばかにしないで」という言葉です。誰もが完璧ではない自分を受け入れ、他者を認め合う優しさに満ちています。そしてもう一つは、「どうせ無理」という言葉をなくし「だったらこうしてみたら？」と考えようというメッセージです。「『どうせ無理』に負けない人が増えてほしい」という植松さんの思いが強く胸に響きます。

他にもたくさんあって紹介しきれませんが、何度観ても胸の奥が熱くなるのと同時に、自分自身を振り返ります。自分や誰かの可能性を否定せず、前を向くこと。

その思いを胸に、これからも生徒たちに向き合っていきたいです。

三中生の活躍

陸上競技部

(敬称略)

「第79回 はちおうじ T&F トライアル」

男子中学1年 1500m	「第3位」	1年	高橋 旺佑	4分46秒49
男子中学2年 1500m	「第1位」	2年	守屋 侑	4分17秒52
男子中学共通 3000m	「第4位」	2年	守屋 侑	9分07秒40
男子中学共通 400m	「第2位」	3年	吉野 和紀	52秒27
男子中学共通円盤投	「第8位」	3年	吉田 湊祐	21m20

「第79回東京都中学校支部対抗陸上競技選手権大会」

男子1年 100m	「第5位」	1年	嶋原 大和	12秒08
男子1年 1500m	「第7位」	1年	高橋 旺佑	4分35秒49
女子1・2年砲丸投	「第8位」	1年	松下 明莉	9m63
男子2年 1500m	「第2位」	2年	守屋 侑	4分11秒07
男子共通円盤投	「第5位」	3年	吉田 湊祐	28m48
男子共通 400m	「第5位」	3年	吉野 和紀	52秒82

都大会で6名入賞!! Great!

女子バレーボール部

「第67回府中市民スポーツ大会秋季大会」

「第3位」 府中第三中学校

女子硬式テニス部

「第52回東京都中学校新人テニス選手権(個人の部)」

ダブルス 2年 常世田 麗美 / 1年 小島 佳歩

都ベスト16に入賞!! Great!



合唱コンクール ～府中の森芸術劇場どりーむホール～

毎日、放課後になると、校舎内のあちこちから、ステキな歌声が聞こえてきます。
どの学年も、どのクラスも、熱心に取り組んでいます。
また、今年も生徒の素晴らしい挿絵が、プログラムとチケットに描かれています。
保護者の皆様も、目と耳で芸術の秋を感じてみましょう!!

日時：令和8年 10月 15日（木）

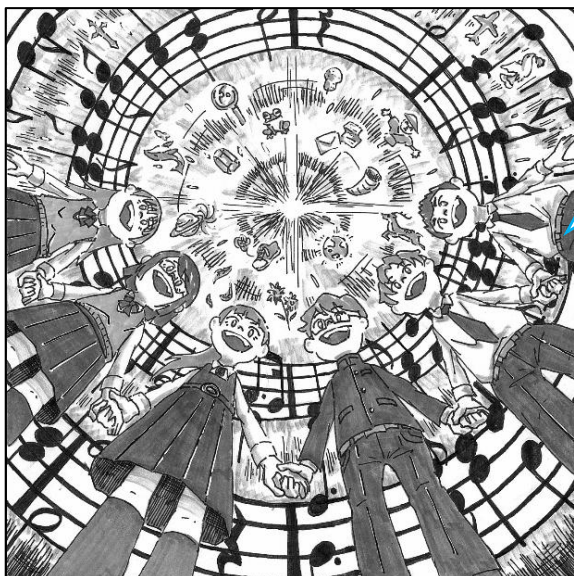
午前の部…開場 9:30～ 開会 9:50～

午後の部…開場 13:10～ 開会 13:20～

場所：府中の森芸術劇場 どりーむホール

- * 当日、チケットを忘れずにお持ちください。
- * 時間厳守をお願いいたします。演奏途中の入場はできません。
- * その他、プログラムの最終ページに書かれている「保護者の皆様へ」をよくお読みになってください。

煌楽 ～きらめく笑顔 心で繋ぐメロディー～



3-E 横山 明咲

このプログラムの表紙絵には、全クラスの自由曲のモチーフが描かれており、音符たちはナント「三中校歌」になっています。



1-E 斉藤 明日香



2-C 高橋 蒼士



3-B 金子 萌々奈

プログラム・チケットに採用された挿絵を紹介します！

